

平成29年白老町議会議会運営委員会会議録

平成29年 1月20日（金曜日）

開 会 午後 2時30分

閉 会 午後 3時31分

○会議に付した事件

1. 議員報酬（自主削減）について
 2. 平成29年白老町議会について
 3. 全員協議会の開催について
 4. その他について
-

○出席委員（6名）

委員長	吉田和子君	副委員長	山田和子君
委員	大淵紀夫君	委員	小西秀延君
委員	吉谷一孝君	委員	西田祐子君
副議長	前田博之君	議長	山本浩平君

○欠席委員（なし）

○職務のため出席した事務局職員

事務局長 南 光男君
主 任 葉 廣照美君

◎開会の宣告

○委員長（吉田和子君） ただいまから、議会運営委員会を開催いたします。

（午後 2時30分）

○委員長（吉田和子君） 協議事項は4項目ほど入っておりますので、随時進めてまいりますのでよろしくお願いいたします。まず1点目なのですが、前日も議会運営委員会を開催いたしまして、各会派の考え方、それぞれの参加委員の考え方を話し合いされまして、なかなか結論には至らないということで、あの時点ではもう一度会派でこの間話しあったことを持ち寄って、もう一度検討していただきたいということと、それから議長、副議長で議論をして、話し合いをしてそれなりの結論的なものがもし議会運営委員会で述べられればありがたいということをお願いをいたしましたけれども、まず最初に議長、副議長の話し合いの結果からお聞きしてよろしいでしょうか。どのようなことになりましたでしょうか。

山本浩平議長。

○議長（山本浩平君） ではまず私のほうから。きょうはちょっと私も時間を勘違いして9時半から議会運営委員会だと思って、前田副議長を9時に呼び出しまして大変失礼いたしました。そういうことで9時ちょっとぐらい前からお話をしましたけれども、お互いにそれぞれ、当然、これは今会派制取って全部会派に入っていますから、これはもう会派のそれぞれの意見を尊重したようなやはり形になると思います。そんな中で前田副議長の思いというか、それはよく私も理解はできました。前田副議長は何回かお話ししているとは思いますが、財政再建中の32年までは議員としてやはり町民に対して形を示すべきだと。それでパーセンテージは抜きにしたとしてもいくらかやはり議員として議会としては町民に対して態度を示すべきではないかというようなお話がありました。私どもの会派はむしろ議員の将来のなり手、あるいは今は議員のほうにはいわゆる保障するのは何も今ないような状況の中で本当に議員のなり手がいないということを懸念していることと、ほかの市から比べても引けをとらないぐらい活動していると。そういう中でやはり基本的には下げるよりも上げるべきだという意見が多いものですから、一旦この自主削減の部分と分けたとしても、この32年の財政再建中にはこだわらず、もしもその報酬等審議会のほうから上げるべきだというような意見が上がってきたら、積極的に私たちの会派はそういう形で展開していきたいということをお話をしました。お互いにそういう意見を何て言いますか、意見交換ということで終わらして、また、議長と副議長だけでこれは決められる話ではありませんので、ただ、私の思いとしてはできれば、例えばこれは議員提案というのもできますので、その議員提案をもしどこかの方がされて、そこで6対7とか、そんなような僅差の状況の中で決めるような形で町民の前に示すということは非常にこれはお恥ずかしい話になってくるのではないかと。そういうことから言うと、うまく話をまとめられるのであればまとめたいと思いますけれども、ただ、私もその会派制の中でやっけて、会派の中にはさまざまな意見がありますので、なかなか私一存の中ではそれも決められる

状況ではないということでございます。

○委員長（吉田和子君） 今、山本議長のほうから報告がありましたけれども、正直に言わせていただきます。私は議長、副議長は会派制をもちろんとっていますけれども、議会の議長、副議長だというふうには私は捉えております。議会全体を見て、財政、行政側とのバランス、そういったものを含めて議論をしていただけるというふうを考えております。もちろん会派での考えがありますので、会派にあっては会派での話し合いということに準じていくのではないかとこのふうには思いますが、私がお願いしたのは白老町議会の議長、副議長、全員が選出した議長、副議長で、2人が町の代表として選出したわけですから、そういった立場で議論をしていただきたいというふうには、そういう本当は希望でしたので、ちょっと違った形の報告があるのかというふうには、もちろん会派を大事にするということもわかりますが、そういったことがちょっと期待をしていました。今の回答いただきましたけれども、これはこの間議論したことからは一步出ているという形ではなくて、採決はすべきではないと。報酬はきちんと上げることも今後考えていかなければならないということは前回議論しておりますので、他の会派のほうで話し合いをして、こういったことがまた新たにどうだろうということが出てきましたとかというのがあればお話をいただきたいと思いますが、どうでしょうか。これはずっと話し合っても同じではないかと思うのですが、どうでしょうか。

山本浩平議長。

○議長（山本浩平君） 今、議会運営委員会の吉田委員長からお話しありましたけれども、本音を言わせていただくと、私は前回、削減しなかった理由の一つとしては、最終的には議会の意見が一致した形の中で、1削減いたしましたけれども、当時の会派の中でも残念ながらちょうど坂下議員が亡くなられたときのタイミングのときの話ですけれども、削減すべきではないという意見が結構、私どもの関係にはそういうのもありましたし、あとは当時その財政再建という中の一つとして行政側の要請があって、それを私も議会運営委員会のほうにかけさせていただいて、皆さんで話し合っていたら、いわゆる旅費の8万円分を、本来4年間あったのですが2年にしたという中では十分議会としてはもう既にやっているのです。既にそれだけの努力はしているし、議会費も削減になっているわけです、そういう面でいうと。そういう形の中でいうと、先ほど私は会派があるからと言いましたが、議長としての意見としても削減はすべきではないという意見であります。

○委員長（吉田和子君） 前田副議長何かありますか。

○副議長（前田博之君） 私は今、山本議長と話をして、一つの委員会の方向性としての部分は理解しました。ただ、今山本議長お話しされていませんでしたけど、私のほうからは、この委員会の流れでは合意の中で方向性を求めようという形にあると。話がつかなければ、やはり議長としての政治的な判断も必要ではないかということはお話ししまして、今、山本議長が明確に議長の考えが示されたので、それについてはどうかということでもあります。

○委員長（吉田和子君） 議長の考え方も示されましたけれども、ほかに何かご意見ありますでしょうか。会派で話し合っても同じでしたか。あまり変わりませんでしたでしょうか。会派としては。

前田副議長。

○副議長（前田博之君） 前回の委員会のときは、ほかの会派ははっきりされていて、吉田委員長のほうから持ち帰って話すという話だったのでそのお話を聞いたらどうですか。

○委員長（吉田和子君） それで今お話あってということも出てこないものですから、同じということなのかと思ひながら、どうでしょうか。各会派のほうで。

吉谷一孝委員。

○委員（吉谷一孝君） 吉谷です。うちの会派のほうでは、委員会終わった後に私の意見をメンバーに話させていただきました。やはり基本的にうちの会派の考え方は、やはり下げるべきではないということと、議会としても、先ほど山本議長も言われましたけれども、議会としての経費の削減は行っているのだということ。その中で前回の議会運営委員会の中で話させていただきましたけれども、報酬を上げるという議論と今回の削減という議論は別だという話になりましたけれども、これは一方削減の話をして、一方で上げる議論というのは議会の中では認識されているから、それはそれで理解はできるけれども、では一般に町民で言われた場合には私はちょっと疑問に思うという話をしたら、やはり会派の中でもそうだねという話が出ていました。そこら辺の理解というのは理解はしてもらえた話ですし、会派としては基本的に考え方は変わっていないということです。

○委員長（吉田和子君） ほかの会派どうでしょうか。うちの会派も話し合ったのですが、先ほど旅費の削減と定数も1減らしたと。定数というのはやはりそのときの現状、状況を把握して議会改革の一つとしてやったわけですが、職員もボールペンの1本までも削減をしてやっているという、全てそういうふうに行っているわけですね。議会ももちろん減らしていますけれども、その上で削減も行っているわけですね。議会はここはこれだけやったのだからいいということではなくて、財政の健全化の中で、何もよくなっていないだろうと、まだまだ厳しいだろうということでも人件費の削減の見直しについてもかなり厳しい意見を言っていました。報酬が少ないから出る議員が少ないというお話もちょっとありましたけど、千歳市議あたりは報酬少ないはずないのです。でも定数だったのです。選挙がなかったのです。だから報酬ばかりでは私はないというふうに考えています。議会に対する何か魅力がないのか、そういったいろいろな要因が含まれているのだと。報酬だったら千歳市議会が高いはずですし、伺っているとかなり活発な議員活動しています。だからそういう面から考えると、決して報酬だけではないというふうに私も会派でもそういう話し合いもしていましたし、何らかのやはり形をきちんと示すべきではないか、それが議員としての責任のあり方ではないだろうかという。それから報酬を上げる議論をするのではなくて、上げる必要があるかどうか。生活給ではないはずですから報酬としてどうなのかという議論は今の報酬では足りないということになれば、もちろん少ないのだということがあるから、それを上げるということの議論にはなってくるかもしれませんが、この間の中では健全化の途中なのでそれが終了次第というふうには出ていましたけれども、そういった話し合いは続けていくということになっていると思いますけれども、うちはそういう形で行政も同じくやっているのだということを前提に私たちは話し合いをしました。会派でほかにどうでしょうか。それとも個人的な意見でも構いません。今、議長、副

議長の報告を聞いて、または個人的にこういうふうに考えるということがあれば、どんどん意見を言っていたかかないと、これは何回やっても同じところでいつも終わってしまうのではないかというふうに思うのですが、どうでしょうか。何もありませんか。

大淵紀夫委員。

○委員（大淵紀夫君） 大淵です。うちの会派は2時間かけて、かなり吉谷委員の提案されたことを含めてかなり深い議論をしました。2時間びっしりやったのですけれども、一つは、やはり言えばうちの会派が言い始めたことですから、そこがだけど大体違う形にはなりようがないのです。だから5%を3%でもいいという意味はそういう意味なのです。我々が議論した中身で言えば、確かに吉谷委員が言われたこともそのとおりでと思います。片方で下げることが議論して、片方では上げる議論をしたら、町民は一体何の話だということにはなりません。ただ、そういうふうにしなないとまたリンクしていかないという部分もある、そういう矛盾はあると。ただ今回のことについて言えば、そうやって言ったらまた同じ考えだというふうにはならないのだけど、やはり今回の部分について言えば、財政健全化計画がそのまま年限が継続されたと。私は議会できちんと言っていますから。前倒して職員の給料を戻すのなら前倒しで戻しなさいということを行っていますから。ですから、そういう措置を今回はとらなかったし、議会も財政健全化計画そのものの期間も認めたわけです。そうであれば職員が削っている中で、我々がそういう姿勢を議員として示す必要がないのかという議論をしたのです。徹底的にしました。結果としてパーセントにはこだわらないけれども、やはり町民の皆さんに見せるためにも、それから私が議員の中でもそう思っていない人がたくさんいらっしゃるのかどうかかわからないけども、町民の皆様が大体職員の給料をカットするの当たり前だと言うでしょう。おかしな議論だと私は思うのです。これは人事院勧告で決めている中身ですから。ですからそういうことからいっても、そこを私出してもらったデータ見ればわかりますけれども、本当に今、議会は削減しているところそんなにないです。職員もないのです。本当に少ないのです。ですからそういう中でうちの職員がやはりそこで白老町の財政を担ったことは議長おっしゃられるように我々も努力はしたけれども、職員の給料は1億円ですから。1億円ちょっとですか。やはりこの重みというのは私はやはりあると思うのです。そこに対する議会としての姿勢はやはり見せるべきではないのかと。そうやって言ったら何も変わっていないということにはならないのだけれども、見せるべきではないのかというのは2時間、議論した結論であります。

○委員長（吉田和子君） 西田委員のところは変わらないので変わりませんか。パーセンテージ的なことも何か話し出しましたか。もしするとしたら。というのは削減はすべきだけどパーセントまではやっていないということですか。山田副委員長の会派はどうですか。変わりませんか。思い切って言ったほうがいいと思います。休憩にして、またこの間のように議論しますか。時間的にこの後もまた委員会入っていますので、これ以上延ばしても同じだと何となく思ってしまうものですから、休憩に入って自由に議論をしたいと思います。

暫時、休憩いたします。

休 憩 午後 2時50分

再開 午後 3時25分

○委員長（吉田和子君） 休憩を閉じて議会運営委員会を再開いたします。

今、いろいろな議論をしてきましたけれども、まだきょうの結論には至らないということで、再度議長の報告、報酬は北海道は全国的に見て低いということで、そういうことも含めて報酬のあり方等の議論を見据えた上での白老町の財政健全化を見て議会としての取るべき姿勢がどうなのかということも含めて削減率のあり方も見ながら、各党派でもう一度議論をしていただいて、2月中にはできる限り結論を出していくと。そしてそのあとに議会改革として報酬、定数等についてまたしっかりと議論していくという形で進めたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（吉田和子君） では次にまだありますので、次々進めていきたいと思います。

次に2番目として、平成29年白老町議会について、まず（1）定例会1月会議について、南事務局長お願いいたします。

○事務局長（南 光男君） 平成29年1月27日金曜日ということで、10時からということで、きょう議案配布されているかと思いますが、提出議案としては町長関係3件、補正予算1件と、条例2件、特別会計の廃止条例が出ております。

それとちょっときょう確認したのですが、行政報告もあるということでございます。鳥インフルエンザの関係とふるさと納税の関係ということでありました。

○委員長（吉田和子君） 1月会議は1月27日に行われるということで、きょう議案提案されたけれども、後ほど出てきますけど、27日議会運営委員会は9時半からということですので、よろしくをお願いしたいと思います。

定例会2月会議について。

南事務局長。

○事務局長（南 光男君） 定例会2月会議につきましても、1月6日の議会運営委員会のときにもお示ししていたのですが、2月10日金曜日、10時からということで今回、きょうも特別委員会で説明あったのですが、振興公社の買戻しということで27日に補正ありますけども、実際に財産取得の議案が出てくるということになりますので、2月10日開催ということで、前段で議会運営委員会を9時半からということになるかと思いますが、よろしくをお願いしたいと思います。

○委員長（吉田和子君） 定例会2月会議は平成29年2月10日ということで、きょう説明がありましたように財産の取得等が入っておりますので、これも9時半からの議会運営委員会でもう一度確認をして提案するということになると思いますので、よろしくをお願いいたします。

では次に、皆さんのお手元に資料1がありますが、全員協議会の開催についてきておりますので、南事務局長のほうからお願いいたします。

南事務局長。

○事務局長（南 光男君） 全員協議会の開催ということでございまして、白老町財政健全化プランの（改訂版）案について説明をしたいと思いますということで、この件について全員協議会で受けることで

よろしいかということでございます。

○委員長（吉田和子君） よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（吉田和子君） 前からいずれは示されるだろうということですので、もう示したらだめだということにはなりませんので、2月10日の本会議終了後に白老財政健全化プランの改訂案が示されるという。これは議決ではないですね。示されるということですので、よろしく願いをしたいと思います。

では、その他について。

南事務局長。

○事務局長（南 光男君） 議会運営委員会の次回開催日なのですが、先ほど定例会1月会議、2月会議、2月10日、この前段で議会運営委員会を開催するというので、9時半からということでも両日ともなろうかと思えます。その他に、もしまだ何か、きょうの自主削減の関係ではないですけども、ある程度日程をどこかで決めていただければと思えます。

○委員長（吉田和子君） 議会もありますので、27日、10日とありますので、そのころに皆さん各会派の代表の方に私のほうからも話し合い進んでいますかということで、もしできていなければまた別に議長とも相談をしながら日程を決めたいというふうに思っていますので、2月中にはやりたいと思っていますので、また怒られますけども、2月中には結論を出したいというふうに考えております。2月13の週ですか。今、そういう理由が出てきましたので、2月13の週の後半ですか。15日か16日ですね。2月のそれでは今、山本議長のほうからも日程的なことのお話がありましたけれども、次回の議会運営委員会を2月16日10時からということでもよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（吉田和子君） 皆様の絶大なるご協力をよろしくお願いを申し上げます。

あと何か皆様のほうから、その他でありますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎閉会の宣告

○委員長（吉田和子君） なければ以上で議会運営委員会を終了いたします。ご苦勞様でした。

（午前11時47分）